

Global 30

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度フォローアップ

上智大学 Sophia University

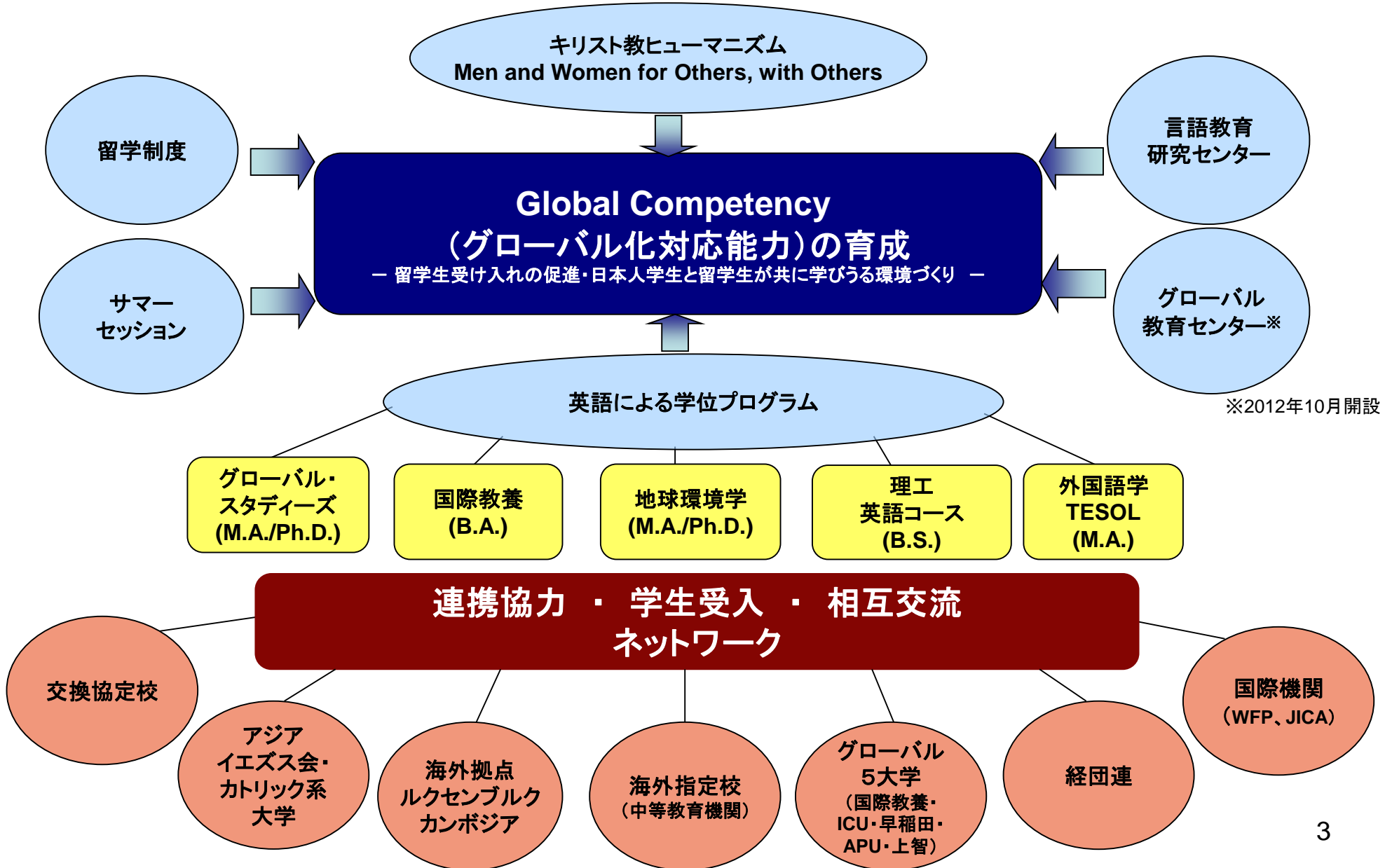
構想責任者
学術交流担当副学長
ユー アンジェラ



目次

I. 上智大学の国際化戦略とGlobal 30「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」	3
II. 本事業の成果	
① Global 30の成果と波及効果	4
② 英語コース在籍留学生からの評価	6
③ 受入留学生数の推移	9
III. 取組状況	
① 英語で学位が取得できるコースの概要と学生受入れの状況	10
② 教育の質保証への取組	11
③ 海外協定校の拡大	12
④ 受入重点国等における留学生受入促進の取組	14
⑤ 留学生受入のための環境整備	16
⑥ ネットワーク形成	17
IV. 経費の使用状況	20
V. 今後の課題と事業終了後の見通し	21

上智大学の国際化戦略とGlobal30「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」



Ⅱ. 本事業の成果

① Global30の成果と波及効果

(1) 英語プログラムの新規開設

- 地球環境学研究科・国際環境コース開設（2011年9月）
- 理工学部・グリーンサイエンス／グリーンエンジニアリング コース開設（2012年9月）

(2) 言語教育研究センターの開設（2012年4月）

(3) 海外協定校数の増加

- 2012年度の協定校数185校（学生交流169校、学術交流16校）（2008年度比23%増）

(4) 受入重点国における留学生受入の促進

- オンデマンド版短期プログラム実施（2012年1月、2013年1月）
- ルクセンブルクオフィスの開設（2012年9月）

(5) 留学生支援体制の充実

- キャリア支援（求職者データベースプログラム、留学生のためのジョブフェア）
- 祖師谷国際交流会館（362室）の運用開始（2012年4月）
- 留学生支援ネットワークにより部署間の連携を強化
- 外国人留学生対象奨学金



受入留学生、派遣留学生の増加
学内での国際交流の促進

(6) 大学間・産業界・国際機関とのネットワーク構築

【国内大学】

- グローバル5大学交流協定
(国際教養大学、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学、上智大学)
- 英語によるプログラム実施のための他大学との連携セミナー (CLILシンポジウム)
- 国内カトリック系大学との連携

【海外大学】

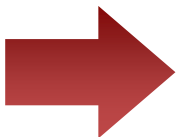
- AJCU-AP (アジアパシフィック イエズス会大学連盟)
- ASEACCU (東南アジアおよび東アジアカトリック大学連盟)
- GAJU (Global Asian Jesuit Universities)
ーイエズス会・東アジア5大学グローバルリーダーシップ・プログラム運営大学
(韓国: Sogang、台湾: Fu Jen、フィリピン: Ateneo de Manila、インドネシア: Sanata Dharma、日本: Sophia)
- ACUCA (アジア・キリスト教大学協会) (2013年4月加盟予定)

【産業界】

- 経団連と共同講座「グローバル人材育成モデル・カリキュラム」を開発
- アジア開発銀行と「ラオス高等教育強化プロジェクト」の連携
- 留学生向け英語による合同企業説明会の開催

【国際機関】

- 国連世界食糧計画 (WFP) と教育連携に関わる協定を締結
- 国際協力機構 (JICA) と「国際協力に関する戦略的協力合意書」を締結



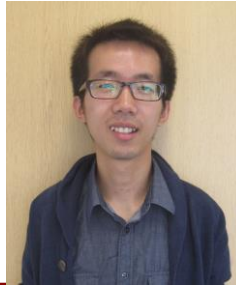
**Global Competencyの育成につながるネットワークの拡充
により各機関のリソース・ノウハウの普及・共有化を促進**

② 英語コース在籍留学生からの評価

(1) 地球環境学研究科（国際環境コース）

■ 博士前期課程2年

Chan Ryan
(アメリカ国籍)



2年前に他大学の短期プログラムに参加したのがきっかけで日本での大学院進学を考え、学部の先生から「国際的な大学」という理由で、上智を薦められました。

私はニューヨーク出身で東京で生活する中で、都市部の人口問題に興味があり、人口集中や大気汚染などに対する、都市部の環境政策を研究しています。

地球環境学研究科は、教員、学生、研究分野、環境など、あらゆる面で“diverse”（多様）で“multicultural”（多文化）なところが素晴らしい点です。授業ではフィールドワークもあり、日本語コースの学生とも交流することができ、とてもいい経験になりました。将来的には、NGO、NPOで環境政策の提言に携わる仕事に就いて、今の研究を役立てたいと考えています。

■ 博士前期課程1年

Lucy Mulcahy
(オーストラリア国籍)



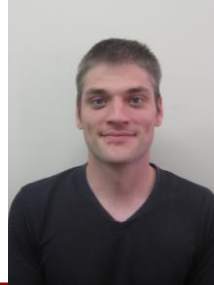
オーストラリアの大学を卒業をして、日本で仕事をする機会があり、日本の大学院で学びたいと思っていました。インターネットで情報収集をする中で、Global30のwebサイトから上智大学のことを知り、環境について幅広い研究分野から専攻できる地球環境学研究科を志望しました。

現在修士論文に取りかかっていますが、自然保護をテーマに、野生生物が受けている交通事故の被害などの調査・研究をしています。授業は、幅広い専門を有する教員や実務経験を積んだ教員が多く、また少人数のクラスが多いことから、学生の興味にあわせて柔軟にテーマを設定してくれるので、とても充実しています。

将来は政府系の機関で環境政策に関わる分析や研究をしたいと思っていますが、世界を舞台に幅広い可能性を感じさせてくれるプログラムです。

(2) 理工学部

■ グリーンサイエンスコース1年 Matthew Lindley (アメリカ国籍)



元々物理学に興味があって、将来的に理系の大学院に進み、専門性を活かした仕事がしたいと考えていました。日本語で授業についていくのはまだ難しいので、英語でB.S.が取得できる上智大学理工学部の英語コースをGlobal 30のサイトで見つけました。

少人数なので、先生との関わりが密接で、先生たちはやさしく、よく面倒を見てくれます。入学後、オリエンテーション・キャンプに行きましたが、先生や先輩たちとも交流を深めることができ、楽しかったです。大学全体の雰囲気は、留学生が多い印象を受けました。キャンパスのあちこちで英語をよく耳にします。

入学したばかりですが、理工学部の必修の科目はおもしろいと感じています。今は、物理学とエネルギー問題への関心が高いですが、生物学にも興味があり、今後様々な科目をとる中で、専門分野を決めたいと思います。

■ グリーンサイエンスコース1年 (アメリカ国籍)

中学校まで中国で暮らし、高校からはイギリスに留学していました。大学は、大好きな日本、特に東京で暮らしたいという気持ちが強く、興味があったサイエンスを英語で勉強できる上智大学を選びました。上智大学は、他大学に比べて様々な国の学生が在籍している点も志望動機の一つでした。

大学では、学生サークルがたくさんあり、これからは学園祭などのイベントも楽しみなところです。

専門分野は、二酸化炭素の回収と貯蔵に興味があります。1年生の今は教養科目が中心なので、早くサイエンス系の科目をたくさん履修したいと思います。

他にも、様々な分野の科目を勉強してみたいと思います。それから具体的に専門分野を決めて、卒業後は、大学院に進んで研究を深めたいと思っています。

(3) 国際教養学部

■ 国際教養学科2年 Xi Shi (中国籍)



国際教養学部の必修科目「Thinking Processes」は、少人数で活発なクラスで興味深いです。多方面の課題を読んで、様々な問題を分析し、先生や他の学生とディスカッションをすることで、ものごとを分析する能力が高くなりました。国際教養学部で勉強するメリットは、多文化な環境とグローバル教育です。学生と先生は、様々な文化背景に異なる価値観と特徴を持っていて、より柔軟な考え方や創造性が身につきます。この経験は、私にとって将来のキャリアの基盤となるでしょう。

また、国際教養学部のグローバル教育は、私の知識に対する理解力も高めています。私の母語は中国語ですが、英語、日本語、フランス語を履修していて、それらは異なる国々の人とのコミュニケーションに役に立ちます。国際金融、国際ビジネス、公共経済などのクラスも、国際的な観点で多くの知識を身につけることができます。

(4) グローバル・スタディーズ研究科

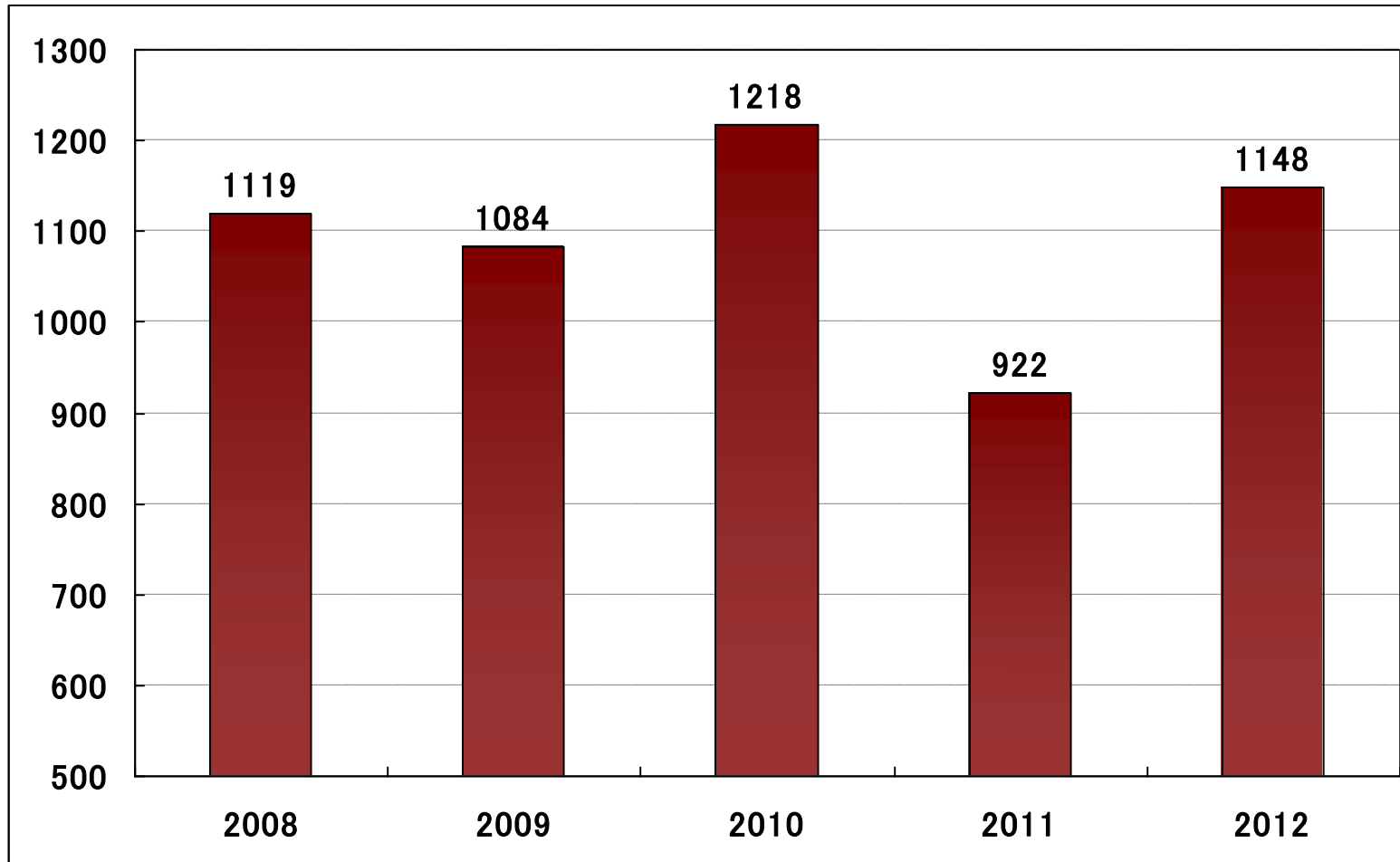
■ グローバル社会専攻 博士前期課程 2年 Al Sa'Di Maha Kamal (ヨルダン国籍)



私は日本文学・文化に興味があり、グローバル社会専攻で、日本研究をしています。プログラムが英語で行われていることや、同時に日本語を学習することを重視していることも、私のような日本語初級者にとって魅力的で、私の目標とも合致していました。日本語は幅広いレベルの授業が提供されています。

上智大学では、たくさんの貴重な経験をすることができますが、自分の国では得ることができないアカデミックな経験がとても重要であると感じています。このプログラムは、国際的な環境も特徴的です。学生たちは多様な文化的、学問的背景を持っていて、個人的にも学問的なレベルにおいても、クラスでの討論を豊かにしています。

③ 受入留学生数の推移（2008年度～2012年度）



※正規生、交換留学生、非正規生、短期プログラム参加学生のうち外国籍の者

① 英語で学位が取得できるコースの概要と学生受入れの状況 (2012年10月1日現在)

学部／研究科	英語名(学部／専攻名)	開設時期	学位	年間 募集人員	在籍者数	外国人 学生数
国際教養学部	Faculty of Liberal Arts	1975年 (開設時:外国語学部 日本語・日本文化学科)	B.A.	146	842	139
グローバル・ スタディーズ研究科 グローバル社会専攻	Graduate Program in Global Studies	1979年 (開設時:外国語学研究科 比較文化専攻)	M.A. Ph.D.	30 6	55 8	38 6
外国語学研究科 言語学専攻 (TESOL コース)	Graduate Program in Linguistics (TESOL course)	2006年	M.A.	23	11	2

▼ Global30事業により開設

地球環境学研究科 国際環境コース	International Graduate Course in Global Environmental Studies	2011年	M.A. Ph.D.	15 10	26 1	26 1
理工学部 (グリーンサイエンスコース ・グリーンエンジニアリング コース)	Faculty of Science & Technology ・Green Science program ・Green Engineering program	2012年	B.S.	30	5	2

合計	948	214
----	-----	-----

② 教育の質保証への取組

■ 全学的な語学教育の刷新



言語教育研究センターの設置

留学生の日本語教育の充実と日本人学生・留学生の英語運用能力向上を目指す。

■ 教育の質を保証する制度



GPA (Grade Point Average)とCAP制

・他大学に先駆けて、厳格な成績評価制度であるGPAや、履修登録単位数の上限を設定するCAP制を導入している。

■ FD・SDの取組



FDプログラムの実施

2011年度全6回、2012年度全8回(予定)

- ・「Active Learningを取り入れた授業」ワークショップ
- ・「キャンパスでの学生の危機 その予防と対応」ワークショップ 等

「教育イノベーション・プログラム」の推進

・特色ある教育を創出するための教育方法・内容の改革と改善

「職員グローバル化のための研修」の推進

「教職協働イノベーション」による業務改革能力の養成

■ 国際的に実績のある教員の採用



国際公募

・経済、外国語、国際教養、理工学部、地球環境学研究科等で導入し、優秀な教員を採用。

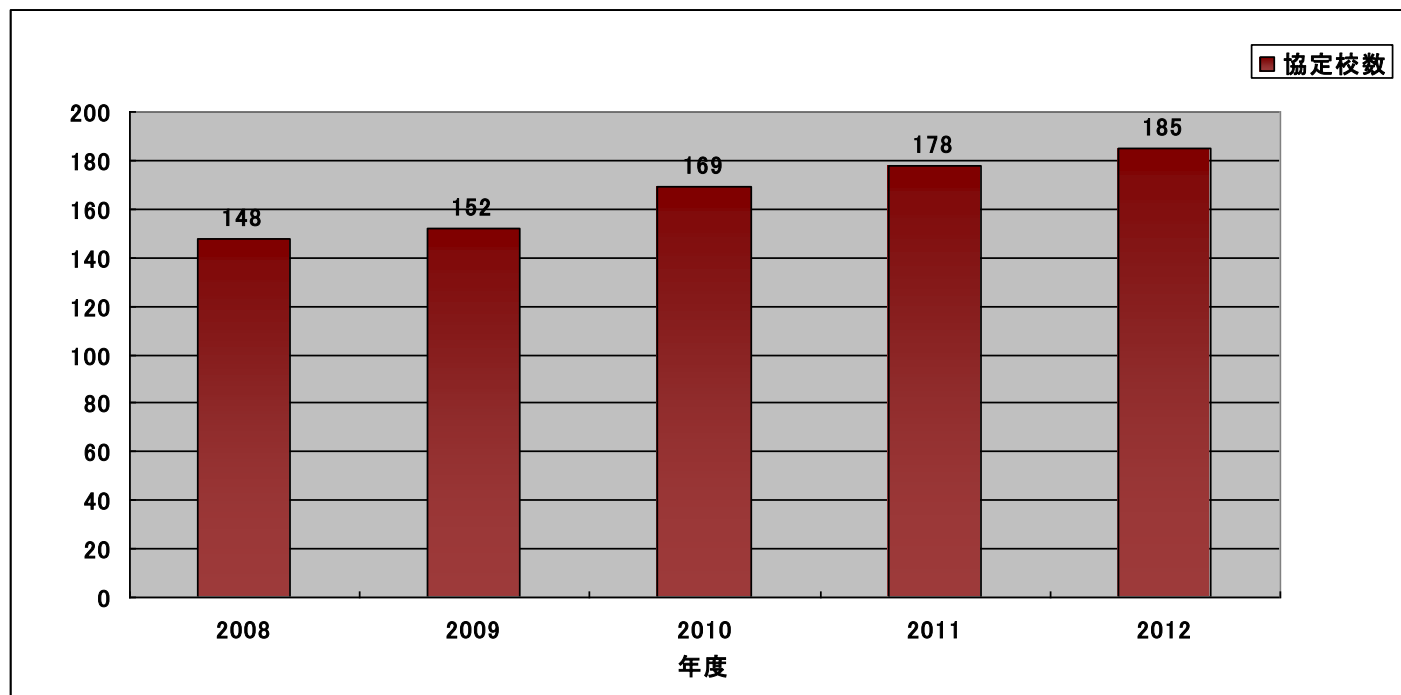
海外招聘客員教員受入制度

・海外から著名な教員を招聘し、教育現場の国際化にも貢献している。

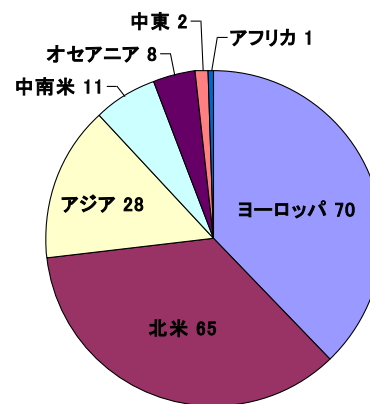
2005年の発足以来、これまで18人(2012年度は5人)の教員を受け入れている。

③ 海外協定校の拡大

(1) 海外協定校数の推移 (2008年度～2012年度)

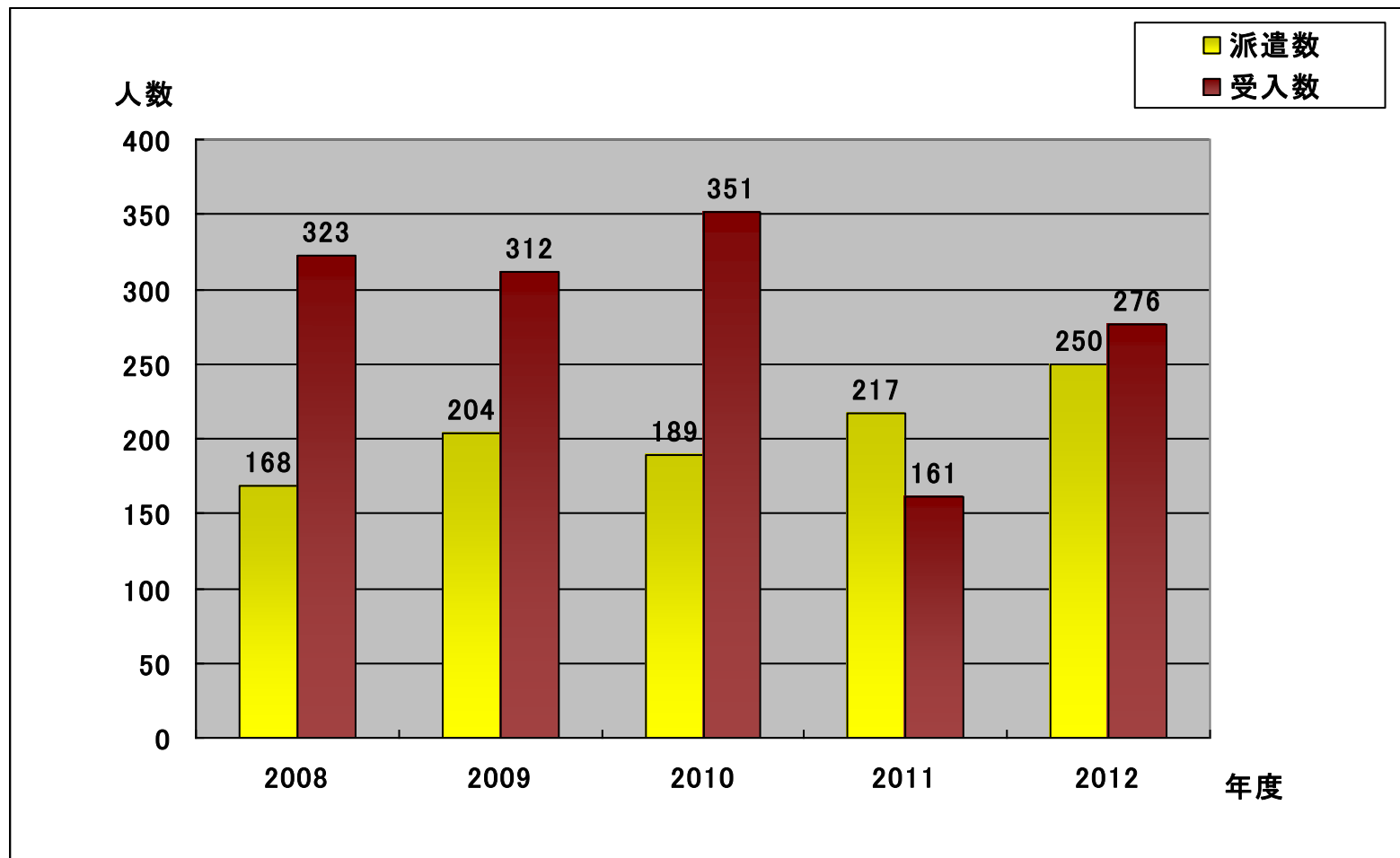


(2) 海外協定校の地域別割合 (2012年度185校)



(3) 協定等に基づく学生の派遣・受入数※の推移 (2008年度～2012年度)

※ 短期(3ヶ月未満)プログラムは除く



④ 受入重点国等における留学生受入促進の取組

(1) サマーセッション複数回開講

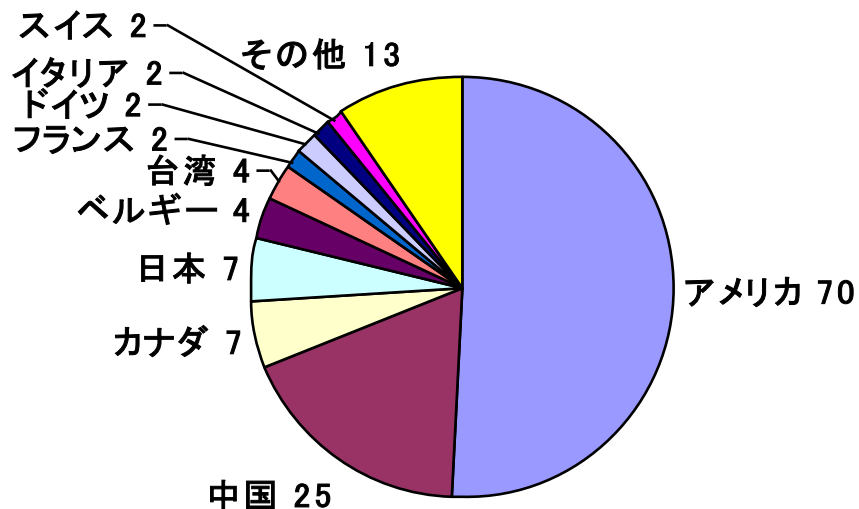
- ・ 中国学生向けにオンデマンド版短期プログラムの開講（2012年1月、2013年1月）
- ・ 欧米学生向けに新たに日本語教育短期プログラムを追加開講（2013年6月予定）

■ サマーセッションの概要

1961年に始まり50年以上の歴史を持ち、これまでの総受講者数は11,000名を超えている。夏期休暇中の3週間に、主に日本の社会、政治、経済、文化を中心に東アジア地域の経済・文化などを含めて日本、アジアを学ぶことで、今日の世界的な視野を持つ人材を育成する。今後、日本語教育プログラムやオンデマンド設計のプログラムを拡充していく予定である。

■ サマーセッション参加学生国籍別内訳

- ・ 外部からの参加者数138名（2012年8月実施）



■ 参加学生の声（終了後アンケートより）

- ・ 中国学生向けウインターセッション（2012年1月）

- ・ 今回のプログラム参加によって、日本留学の価値とおもしろさが分かりました。
- ・ 授業の内容や、先生の授業スタイルがおもしろくてわかりやすかったです。
- ・ 海外留学の思いがさらに固まりました。
- ・ 国際理解に関する意欲が高くなりました。
- ・ 自分のためにも中日交流にも、日本語を勉強しなければならないと思います。
- ・ このプログラムをきっかけに、勉強はグローバルな考えが必要だと深く感じました。

(2) ルクセンブルクオフィスの開設（2012年9月）

- 現地と周辺国の学生への日本留学に関する各種広報・募集活動の展開
- 既存の協定校との関係強化
- 新規協定校開拓等に向けたリサーチ活動

ルクセンブルクは、国民の大半が多言語を使いこなすなど、高い教育水準と国際性を併せ持った環境を有している。地理的にも欧州の中心部に位置し、欧州各国に効率的にアクセスできる環境でもある。このような立地を活かし、交換協定校であるルクセンブルク大学内に拠点を開設することとなった。EUにおけるHubとして活用していく。



オフィスはルクセンブルク大学内に開設

(3) 海外指定校入試制度の拡大

- 聖心女子高等学校 Sacred Heart Girls' High School（韓国）
- 東星高等学校 DongSung High School（韓国）
- 復旦大学附属中学 High School Affiliated to Fudan University（中国）
- 釜一外国語学校 Puil Foreign Language High School（韓国）
- 今後の受入重点国として、インドやASEAN諸国に拡大予定

海外の有力かつ特色ある「海外指定校」から、教育機関の長の推薦に基づき優秀な学生を受け入れる入試制度を設けた。
出願書類と面接により選考を行う。

⑤ 留学生受入のための環境整備

(1) キャリア支援

- ・ 留学生向け合同企業説明会開催（2012年6月）
- ・ 留学生求職者（インターンシップ希望者）データベースの構築

(2) 祖師谷国際交流会館の獲得と運用開始（2012年4月）

- ・ 全362室あり、海外からの教員・研究者のために家族寮も設置。
- ・ ハウス・アシスタント（居住者の生活サポート、会館運営支援）を配置し、留学生の生活をサポート。

(3) 事務支援体制の国際化

- ・ 従来よりマルチリンガル体制であったが、「留学生支援ネットワーク」を構築し、部署間の連携を強化。



留学生支援ネットワークのロゴ

(4) 外国人留学生対象奨学金

- ・ 地球環境学研究科「国際環境コース」の受入留学生の授業料を新入生奨学金として全額免除（2012年度7名採用）
- ・ ドイツ・ケルン大司教区より「フリングス、ヘフナー、マイスナー3枢機卿奨学金」が創設され、ミャンマーを中心としたアジアの発展途上国からの留学生を支援
- ・ 他に、私費留学生を対象とした修学奨励奨学金や篤志家奨学金などを多数提供



テンプル大学と共同開催した
合同企業説明会



祖師谷国際交流会館

⑥ ネットワーク形成

(1) 大学間ネットワーク

【国内大学】

■ グローバル5大学交流協定

(国際教養大学、国際基督教大学、立命館アジア太平洋大学、早稲田大学、上智大学)

共同教育(共同インターンシップ事業やオンデマンド教育)、FD/SDプログラム、シンポジウム、進学フェア等の共同開催を計画。

G5合同進学相談会
(2012年8月)



■ 英語によるプログラム実施のための他大学との連携セミナー

大学教育における授業の英語化について議論するシンポジウム「『英語で専門科目を教える』を考えるーCLIL(内容言語統合型学習)理論の活用と可能性」を開催。37参加機関数、120名を超える参加があり、英語で専門科目を教えるための指導法や英語教育の在り方について、事例発表と意見交換を行った。

CLILシンポジウム
(2012年9月)



■ 国内カトリック系大学との連携

海外サービスラーニングや国際会議への学生参加等によるグローバル教育に向けた連携。

【海外大学】

■ AJCU-AP(アジアパシフィック イエズス会大学連盟)

東アジアのカトリック大学の学生と共に、教育研究と途上国の地域社会への貢献をリンクさせた活動を実践するサービスラーニング・プログラムを毎年8月に実施している。

■ ASEACCU(東アジアおよび東南アジアカトリック大学連盟)

年に一度メンバー校による総会・学生会議を開催し、アジアのカトリック教育機関として取り組むべき課題や果たすべき役割について議論する場を提供。2011年度は本学がホスト校を務め、環境問題への取り組みについて討議した。

■ GLP(イエズス会東アジア5大学によるグローバルリーダーシップ・プログラム)

上智大学、Sogang大学(韓国)、Fu Jen大学(台湾)、Ateneo de Manila(フィリピン)、Sanata Dharma(インドネシア)から選抜された学生が一堂に集い、特定のテーマについて討議、フィールドワーク等を重ねながら、国際理解とは何かを学ぶプログラム。輪番で毎年8月に各大学のキャンパスで開催している。

(2) 産業界・国際機関との連携

■ 経団連と共同講座「グローバル人材育成モデル・カリキュラム」の開設

2012年度秋学期、本学学部2年次生を対象に、経団連と共催で「グローバルビジネスの現状と課題」(全学共通科目)を開講。国際ビジネスの現場で活躍している現役の企業人を講師として招く輪講形式でグループ討議やプレゼンテーションを行うなど、双方向性を重視した実践的なカリキュラム構成。

■ アジア開発銀行と連携し、「ラオス高等教育強化プロジェクト」を推進

ラオスの国立大学教員および教育省職員を対象に英語で修士号・博士号を取得できる留学を支援し、同国の教育行政を発展させるための人材育成に貢献するためのプロジェクト。アジア開発銀行と連携して留学生の受入れと必要な費用を分担し、2012年度春学期は3名が入学。

■ 国連世界食糧計画(WFP)と教育連携に関わる協定を締結

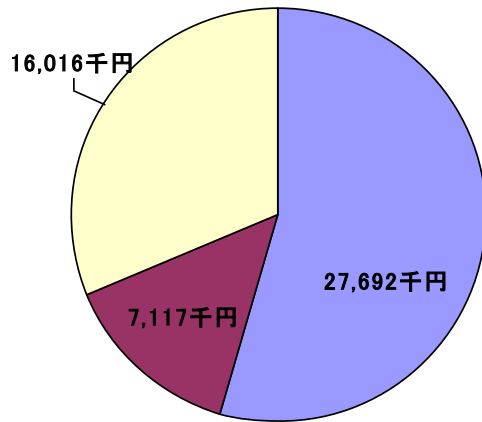
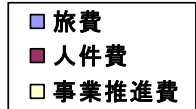
WFP職員による講義「グローバル化と国際貢献」(2012年度)や講演会を通して、WFPと国際貢献についての理解を深める。

■ 国際協力機構(JICA)と「国際協力に関する戦略的協力合意書」を締結

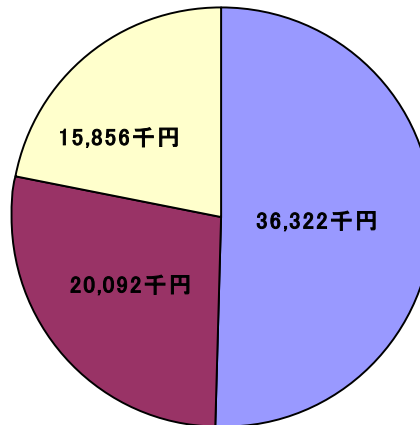
これまでの人材育成支援無償(JDS)における留学生の受入などの実績に加えて、新たに連携協力の協定を締結。JICA職員による講義「国際協力概論」(2012年度)、国際シンポジウムの共催(2011年9月、2012年8月)、学生インターンシッププログラムを実施している。

IV. 経費の使用状況

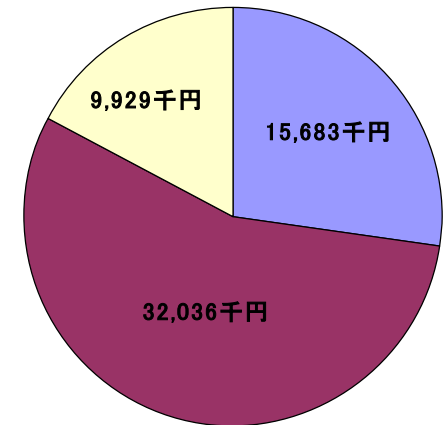
Global30事業経費の使用実績



2009年度
50,825千円



2010年度
72,270千円



2011年度
57,648千円

V. 今後の課題と事業終了後の見通し

(1) 中間評価指摘事項への対応

- 国際化達成評価協力者会議の実施（2012年2月）
- 言語教育研究センターの開設（2012年4月）
- 宿舎の整備（祖師谷国際交流会館）（2012年4月）
- 海外拠点（ルクセンブルク）の設置（2012年9月）

(2) 今後の課題と展望

- 留学生数の受入目標値（2020年2,600人）の実現に向けた協定校開拓、短期受入プログラムの拡充
- 言語教育研究センターによる言語的サポートを含む学習支援の強化
- 祖師谷国際交流会館のキャンパスとしての活用
- GLP（グローバルリーダーシップ・プログラム）5大学をはじめとする、各大学、各機関とのネットワークを活用し、学生募集や新規プログラムの企画等で連携を強化
- 上海日本人学校をはじめ、世界の日本人学校との連携の推進
- 国内外大学ネットワークを活用した連携
- 海外大学とのダブルディグリーの構築

(3) 事業終了後（2014～）の見通し

- Global30事業によって設置したプログラムの質の向上
- 海外拠点のさらなる活用
- グローバル人材育成を目指す新学部の創設による留学生受入
- 学内における重点研究を取りまとめ、それをふまえた研究交流のさらなる促進